

コミュニティ

くさつ

My home town story

大路

2021.DEC
129号 12

[編集発行]
公益財団法人 草津市コミュニティ事業団
[作成協力]
大路区まちづくり協議会



コミュニティくさつ 私のホームタウン編 - My home town story - はじまります

いつも「コミュニティくさつ」をご愛読いただきありがとうございます。ご理解をさせていただきます。

ここ草津では14の地域(小学校区)で、その地域ならではの魅力的なまちづくりが今日も展開されています。かねてより「私のまちのことをもっと知りたい。このまちを特集して欲しい」といったご意見をいただいております。

こんな嬉しい声にお応えすべく、これまでの通常版(草津市域)に加え、新たに概ね小学校区に焦点をあてた地域

版「私のホームタウン編 -My home town story-」を発行することになりました。地元の地域まちづくり協議会の協力をいただきながら、年1~2回、地域の魅力や深掘り情報をお届けします。通常版とともどもよろしくお願ひします。

まずは本誌編集部を置くキラリ草津の地元、「大路」からスタートします。次に訪れるのはあなたのまちかもしれません。

多くの住民さんが見守る中、神楽が奉納され、きつねの面を着けた神官から地元ゆかりの食材がお供えされました。そして「コンコンチキチン・コンチキチン」のお囃子とともに、ユニークなしぐさで太鼓の周りを踊るきつねたち。久々の姿に神さまも喜ばれています。

FEATURE

大路のこれからに挑んだ、3人の仕掛け人。

ここに1冊の写真集があります。大路今昔物語。「大路井」と呼ばれていた村が駅の開業など時代と共に、変貌を遂げてきた様子を絵や当時の写真でリアルに伝えてくれます。平成28年に大路区まちづくり協議会より発行された写真集の編さんに深くかかわった中島さん、福井さん、伊勢村さんです。合わせて御年254歳というお三方は生まれも育ちも大路、言わばこのまちの語り部です。でも昔を語るだけではありません。100年ぶりの踊りの復活、クリスマスブーツイベント、大路区民まつりと、今を、そしてこれからの大路を見据えた、まちの魅力を創り続ける仕掛け人なのです。

中島 孝雄さん (91歳)
 福井 清さん (85歳)
 伊勢村 恭司さん (78歳)



100年の時を超えて。
 復活！きつねおどり



一枚の絵馬から

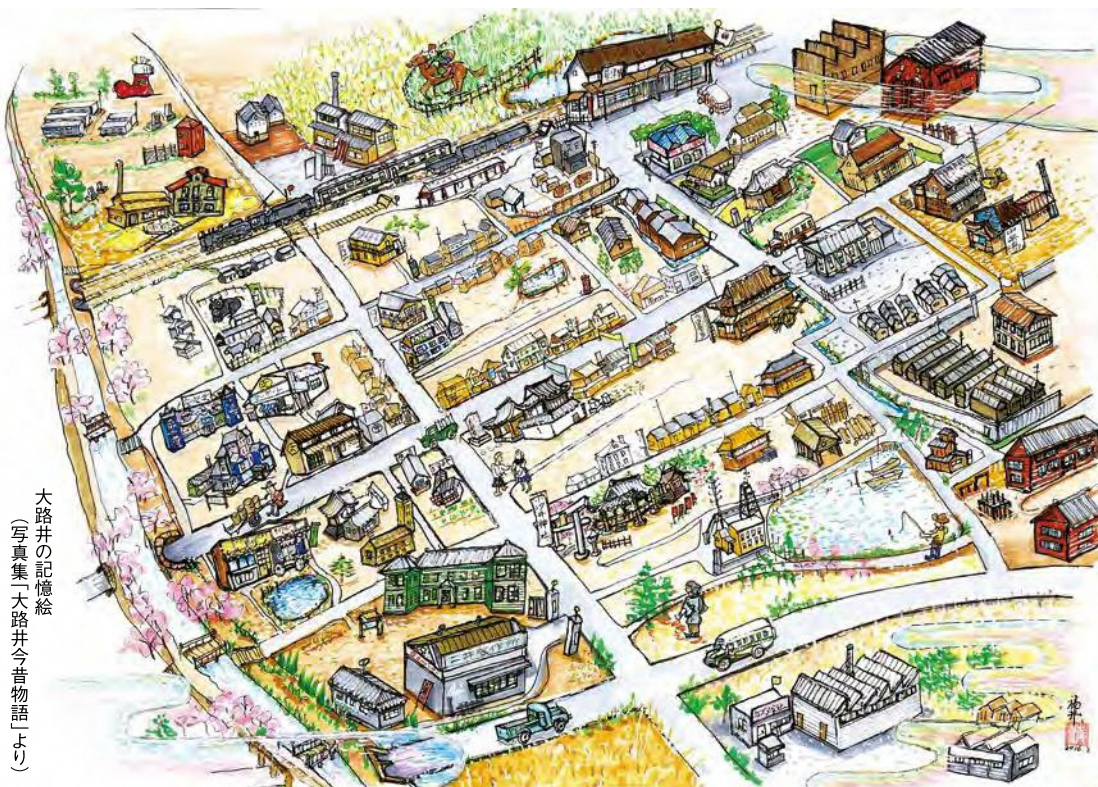
今日も子どもたちが元気いっぱいに通う草津第二小学校。ここは昔、世基池という大きな池でした。のんびり釣りを楽しむ姿や「大路井別荘地」といわれた池周辺の写真も残っています。

ここに小学校が開校したのが昭和48年、その初代PTA会長だったのが中島さんです。開校2年目の文化祭では、各家庭に眠っている地元の懐かしい写真を集めて写真展を開催。この時に集まった写真が約50年後の写真集へとつながりました。「変わりゆく駅周辺の記憶を呼び覚ます機会に二度も携わることができ、地元へ貢献できてよかった」と中島さん。

時は平成に移り、小汐井神社の事務局長として忙しい日々を送っていた中島さん。神社に掲げられている一枚のきつねの絵馬が、いつしか気になりだしたので、か。その由来を知りたくてあちこち尋ねまわるも誰も知りません。

ようやく一人、当時90歳のおばあちゃんが答えてくれました。「私が嫁いできたころは、きつねおどり」というのがあって、豊作の祈りと感謝のため神社に奉納してたんだよ」

折しも神社の1140年祭(平成15年)を数年後に控えていた時期。この「きつねおどり」を復活させるべく宮司さんや神社の役員たちとの活動が始まり



大路井の記憶絵 (写真集「大路今昔物語」より)

大路

草津駅をはさみ東西に位置し、商店街・大型スーパー・百貨店など多くの商業施設があるなど生活の利便性が高いことから、近年はマンション建設による人口流入が大変進んでいる。

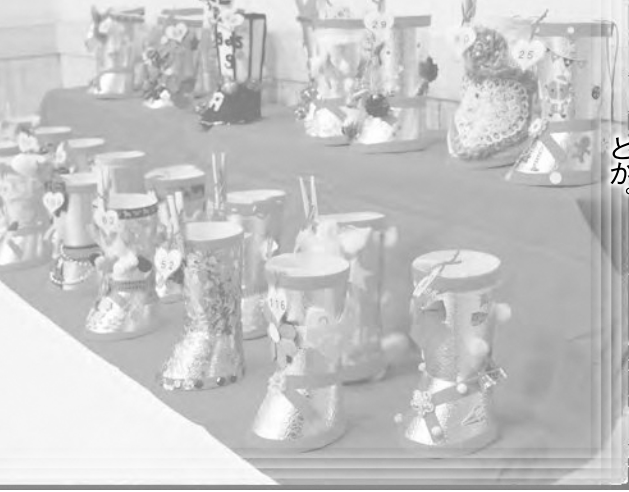
JRが通り、国道1号・サンサン通り・びわ湖通りなど主要幹線が複数縦横断するなど交通の利便性も高い。地域内には天井川で有名な草津川の跡地があり、春には満開の桜を楽しみに、地元の人や近隣の人で賑わう。

※大路区まちづくり協議会HPより抜粋(一部校正)

●総人口	: 12,098人 (137,266人)
0-14歳	: 1,641人 (20,426人)
15-64歳	: 8,229人 (86,172人)
65歳以上	: 2,228人 (30,668人)
●世帯数	: 5,564戸 (61,426戸)
●65歳以上の割合	: 18.4% (22.3%)

※外国人を含めた集計/カッコは草津市全体草津市HPより(令和3年9月30日時点)





◀クリスマスブーツギャラリー
(提供：立岡写真館)

こうして100年の時を超え、きつねおどりが復活。無事に1140年祭で神社に奉納されて以来、毎年のお祭りで踊られています。中島さんは「思いを持ち続けること。それを人に伝えながら行動すること。そうすればきつと夢は叶うんだよ」と子どもたちに言い続けているのだとか。

ました。

といつても、資料は何もありません。様々な文献をあたり、他県で行われる「きつねまつり」などを参考に衣装を揃えました。音律はおばあちゃんのかすかな記憶を基に、また振り付けは地元で踊りの先生にお願いしました。

100年の時を超え

夢を持つことって、ホント大切ですね。そうそう、夢といえは、ここ大路にはとても夢を感じさせてくれるモノがあります。クリスマスが近づくと、まちのあちこちで見かけるアレ。

そう！クリスマスブーツです。

人を、まちを、つなぐ。

クリスマスブーツ



夢を持つことって、ホント大切ですね。そうそう、夢といえは、ここ大路にはとても夢を感じさせてくれるモノがあります。クリスマスが近づくと、まちのあちこちで見かけるアレ。

発祥の地

今や大路のクリスマスといえはクリスマスブーツ。街角で、店先で、小さくさまざまなブーツがまちを彩ります。ホテルや銀行のギャラリーでは、子どもたちがペイントしたカラフルなブーツが並び、あたくも大路のまち全体がクリスマスを心待ちにしているようです。

そこはかとなく…

このクリスマスブーツイベントの仕掛け人こそ、草津駅西口商店街の会長(当時)だった福井さんです。

と動き出しました。

近商物産はもとより、西側の店舗や事業所にも協力してもらい、クリスマスブーツのギャラリーを企画。ワークキットでオリジナルブーツを作ってもらい、銀行・ホテル・ショッピングセンターなどで展示、道行く人にお気に入りの作品を投票してもらおうとテストも始めました。「年々、力作が増えていますよ」と福井さん。

ブーツがつないだ縁

東日本大震災がきっかけで交流を深めていた伊達市(福島県)の子どもたちにもブーツを届けに行つたことで、遠く伊達市でもクリスマスブーツギャラリーが行われるようになりました。これがきっかけとなり、草津市と伊達市の子どもの交換留学「みらいKIDSにぎわい交流事業」が始まり、互いの子どもたちの思い出づくりに「役買うことになつたのです。

知られざる地元の特産をまちの賑わいにつなげ、人と人、まちとまちの交流までつくり出したクリスマスブーツ。あのブーツには本当にたくさんの夢が詰まっていたのです。

6ページに続く



中島孝雄さん



福井清さん



伊勢村恭司さん

ひとまち
ぶらり

大路

大路のパワースポット

静かな森に囲まれた大路のパワースポット
手水(ちょうず)は地下20mから引いた御神水
「こしおい」じゃなくて「おしおい」

2021年オープン、
草津の新しいまちづくり拠点
5階には本誌編集部(事業団)
まちづくりの相談は事業団まで

大路区まちづくり協議会が運営管理する
大路のまちづくり拠点
コロナ禍で食料の無償配布や手づくり
マスクの販売も



キラリエ草津



大路まちづくりセンター

大路井別荘地

世基池(現・第二小)の周り
にあった別荘地群

世基の池の…

グラウンドは昔の世基池の
カタチのまま
校歌にも「世基の池の…」
と残ってる

ハミングブロード

サンサン通り

国道1号

草津第二小学校

草津宿橋

橋の5m下には車が
ビュンビュン行きかう国道
ここも東海道の一部

新屋敷
●第二公民館

小汐井神社

これぞ銭湯

♪いい湯だな、ハハハハ♪
昔ながらの「ザ・銭湯」であったまる
今の若者たちにも人気です

フリータイム

引きこもりがちな若者の居場所を提供
生活訓練や就労支援の相談もどうぞ

いろはもみじ

明治以降の激動を
見守ってきたというモミジ
今は2代目の樹なんだとか

長〜い公園

旧草津川の跡地にできた長〜い公園。全長800m
春は花見、秋には区民まつりでにぎわう、住民憩いの場
大路まち協でパトロールもしています

ファーマーズマーケット

月1ペースで滋賀の野菜・湖魚・コーヒー・
加工品がde愛ひろばに大集合
生産者さんとのやり取りがめっちゃ楽しい

草津川跡地公園
de愛ひろば

クサツコリバ



守山 ↑

ガーデニングサークル「グラッシー」

ニワタスやde愛ひろばの緑を維持管理
四季を通じて美しい草花をご堪能あれ



にゃんこおたすけ隊

捨てられた猫や野良猫の
保護と里親活動を行う
高校生ボランティア



きらら通り

クリスマスブーツギャラリー

今や大路の冬の風物詩
コンテストはどれも力作ぞろいと評判!

駅西ロード

西大路美道隊

草津駅西口花壇(プランター)の
花植えをしてくれる
みちサポーター

大江霊仙寺線

● エイスクエア

びわ湖通り

● エストピアホテル

最上階(25階)のチャペル

琵琶湖まで望めるよ

草津発祥! クリスマスブーツ

草津が発祥のクリスマスブーツ
年末にはでっかいモニュメントが登場。映える!



1989年にオープン
18階建ては当時の県内最高層
たくさんの方が、からくり時計の
人形を見上げたのも今は昔

● エルティ932

県内に数ある平和堂の中でも1968年
オープンの第2号店!
当時はエスカレーターがめずらしく
子どもたちが社会科見学に来たとか

● 草津コミュニティ
支援センター

大路区更生保護女性会

旧中山道とサンサン通りの交差点にある花壇
四季折々の花に癒される

草津警察署



● 墓地



野村グラウンド



Y M T アリーナ



どこに〇〇
いるかな



× 1

大路区の
マスコットキャラクター
おおじくん



× 3

草津市コミュニティ事業団
マスコットキャラクター
まち活マッチ

(旧草津川)

↓ 大津

集い、楽しみ、ふれあう。

大路区民まつり



では次々と店が開まり、買い物かごを手に、立ち話している風景もいつしかなくなりました。暮らしの気配が消えた昼間は静かになり、むしろ夜の方が飲み屋さんの客でにぎやかになりました。

マンションも次々と建って、今では引越してきた人の方が多いうつというのも自然の流れですよね」

交流といえば、ここ大路では沢山のマンションが立ち並び、今や小学校に通う子どもたちの多くはマンション暮らしなのだとか。住民同士の交流といっても簡単ではなさそうです。

そこで大路の皆さんが一堂に会するふれあいイベント「大路区民まつり」のお話です。

3人目の仕掛け人、伊勢村さんの登場です。

人は増えても…

「昭和40年代に大型店舗が駅前に登場し始め、平成に入るとショッピングセンターや百貨店もできたように、まちの表情は目まぐるしく変わりました。買い物客でにぎわっていた商店街

ち寄りたくなるようなイベントにすることが大命題。なんとも高いハードルです。

そこで伊勢村さんたちは、大路まちセンター前の空き地と公道で開催する計画を立てました。道を通り止めにする必要があるため、何度も警察に行っては断られ、やっこのことで許可をもらうことができたのです。

「住民同士のコミュニケーションが希薄になりつつあるのはヒシヒシと感じていましたし、一人でも多くの人に参加してもらいたい一心でした。もつ必死でした」と伊勢村さん。

立ち止まらない

区域内に商店や大型店舗・ホテルなど多くの事業所・企業・活動団体があるのが大路の強みです。これらの団体にも協力を求め、模擬店などもグンと充実しました。なにせプロの味です。

課せられた大命題

実はそれまでも、区域のまつりはありました。ただ、小学校を会場にしていたこともあり、参加者は限られていました。新しい「大路区民まつり」は誰もが気軽に参加できるものにした。ふらっと通りかかった人でも立

こうして、大勢の住民でにぎわう「大路区民まつり」の今があります。草津川



跡地が整備されたときには跡地公園（de愛ひろば）の700mもの長い空間を会場にするなど、今も地元愛と創意工夫で進

化を続けています。うれしいことに市外の方からも「今年はいつ開催されますか」と連絡をいただくのだとか。

いかがでしたか。きつねおどりの復活・クリスマスブーツ・大路区民まつり……。どれも今の大路を象徴するものですが、その陰にはそこに暮らす人の「まちへの想い」がありました。伊勢村さんが最後に言ってくれました。「この大路に住む一人ひとりが誇れるまち、住んで良かったなあと思えるまちになって欲しいですね」

冒頭に紹介した写真集「大路今昔物語」の巻頭には“大路井の記憶絵”という絵があります（P.2）。昭和25～30年ごろの大路の様子を俯瞰的に捉えたものです。3人の仕掛け人をはじめ、当時を知る人たちの記憶を集め、福井さんが一枚の絵に描きました。お店も街並みもずいぶん変わったことがわかります。

こうして新しいものを取り入れながら変えていくことと、辛抱強く守っていくことの調和が、このまち「大路」の魅力なのかもしれません。



▲エストピアホテル前のでっかいクリスマスブーツ(提供：立岡写真館)

オレンジのおばちゃん、今日も行く。 大路区更生保護女性会

草津駅の東口、ビルに囲まれた一角に色とりどりの花が咲き誇るスボットがあります。ビルや道路の無機質な色の中で、緑が際映える「オアシス」。この草花を手入れし、道行く人の目を癒してくれているのは大路区更生保護女性会の皆さん。大路の子どもたちなら、どの子も彼女たちを知っています。そう、「オレンジのおばちゃん」たちのことを。

名前はカタくても…

「更生保護」なんて言つと、少し難しそうなイメージをもたれるかも知れませんが、更生保護とは一般的には罪を犯した人や非行に走ってしまった若者の立ち直りを社会の中で助けていこうとする活動のことですが、全国組織である更生保護女性会では明確な定義はされていないのだとか。

ます。その二つが先ほどの緑の手入れ「みちサポート」です。

草津の玄関だから

旧中山道とサンサン通りの交差点。ここはかつて手入れされていた方が亡くなって以降は放置されていた場所。草はボーボー、空き缶やゴミも捨てられ放題だったとか。

「駅前のこの場所って、いわば草津の玄関。私たちの手できれいにしよう」と当時の会長の声かけから平成26年に始まりました。

かけてくれたり、マンションの上階に住む人から「庭がないから、自分の家の庭のように上から見たいです」と言われたことも。

下校中の子どもたちからは「オレンジのおばちゃん、ここにチューリップ植えて〜」とリクエストがあることも。どこかで活動を見てくれている人がいるのは、やりがいにつながるし、花を仲立ちに知らない人との会話が生まれるのも嬉しいものです。

オレンジのおばちゃん

子どもたちからも話しかけられるつてすごいですね。

善意には善意が集まります。それなら〜と地元の方がトラックで土を入れてくれ、花壇を作りました。メンバー各々が自宅で育てた苗を持ち寄り、季節の花を咲かせる活動を始めました。

毎日の水やりが欠かせない夏場など苦労は絶えませんが、やりがいの方が勝ります。横断歩道を渡る若いスーツ姿の男性が「いつも水やりありがとう」と声を

きっかけは平成16年に他県で起こった子ども誘拐事件でした。大きく報道され、子どもはい



の皆さんとしています。またまた難しい活動に間こえますが、普段はもっと身近な地域活動をされています。

きつかけは平成16年に他県で起こった子ども誘拐事件でした。大きく報道され、子どもはい

8ページに続く

もじうめスツキリ

大路らしいものを集めてみたよ。
□に入る5つの文字を答えてね。本文にヒントがあるよ。

問

- 中にはお菓子和夢がたくさん詰まっています
クリスマス□ーツ
- 秋には境内できつねおどりが奉納されます
おしお□じんじゃ
- 覚善寺前にある昔の道案内
ど□ひょう
- たぬき?ねこ?さる?いえいえ、100年ぶりに復活
きつ□おどり
- 草津第二小学校があった場所、昔は…
よもとい□

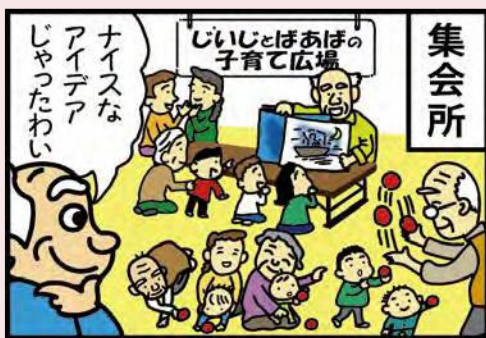
応募方法
ハガキに①答えの5文字②住所・氏名・年齢・電話番号③今号の感想を添えて下記まで。
FAX、メールでのご応募もお待ちしています。
もちろん、大路以外の方もOK!

※切宛先 12月17日(金) 必着
〒525-0032
草津市大路二丁目1番35号(キラリエ草津)
(公財)草津市コミュニティ事業団
「コミュニティくさつ12月号」係
☑ com-com@mx.biwa.ne.jp
☎ 565-0411

プレゼント
応募いただいた中から抽選で、草津川跡地公園内クサツコ
コリバの3店舗で利用できる優待券(1,000円相当)を5名様にプレゼント。



えっ、渋滞!?



誰も経験してない活動だけに、事前に警察とも相談アドバイスももらって背中を押してもらいました。

活動は毎週金曜の下校時。メンバーを3ルートに分け、1年生の集団下校に付き添います。オレ

「週末におじいちゃん家に行くんだよ」「楽しみだねえ」。道すがらの子どもたちとの会話は楽しい限りですが、ヒヤツとする体験もありました。

風で帽子を飛ばされた子が追いかけて車道に飛び出そうとした時に車が...。間髪で子どもを引き留め、難こそ逃れましたが、子どもたちの様子を片時も見逃してはいけないと、今でも戒めと

「私たちメンバーは自分の自転車にもプレートをつけて町中を走り回っているんですよ。新1年生には私たちが下校に付き添っていることを説明するカードをポケットティッシュに添えて渡し、保護者にも活動を知ってもらうようにしています」

子どもたちの安全を守るには子ども自身だけでなく、周りの大人の目や意識も必要です。安全のための標語をプレートにし、通学路の目立つ場所に取り付ける啓発も彼女たちの手によるもの。プレートは200枚。一枚一枚が手作りです。

安全はみんなの目で

現在、会では新しい仲間を募集中。「更生保護」というカタメの名前で難しく思われそうですが、願いはこのまちの人たちが、このまちで楽しく安全に暮らし続けるという当たり前の暮らし。まちでオレンジのジャンパーを見かけたら、気軽に声をかけてください。あなたも「オレンジのおばちゃん、おねえさん」になりませんか。

ポイント

大路まちセンを利用するみんなの声と笑顔をお届けします。

大路のここが好き



「コミュニティくさつ」の経費(企画編集、印刷、折込など)は1部あたり15円です。この経費は事業団が行う公共施設運営管理(指定管理)などの経費縮減などで得る独自の収益金のほか草津市からの補助、市民の皆さんからの寄付および本誌に掲載している企業等の広告でまかっています。

